

Global South と日本の協力は、 世界に貢献するものとなるか？

豊田 正和

小生の答えは、もちろん Yes です。

日本の経済力は、近時、相対的に低下しているものの、そうした協力が世界に貢献することは間違いありません。

1990年時点における実質 GDP（米ドルベース）を比較すると、日本は米国に次いで2位でした。しかも、当時は、米国の GDP は日本の倍程度でした。ところが、2025年では、1位は米国、2位が中国、日本は3位となっていますが、米国の GDP は、日本のその今や5倍の大きさとなっています。

一方で、日本の経済力の相対的低下にもかかわらず、日本への信頼度は上昇しています。ISEAS（ユソフ・イシャク研究所）によると、ASEAN の有識者は、「信頼できる国・地域連合」として日本を指摘し、連続7年間1位を占めています。とりわけ、2025年の調査では、67%の人が日本を信頼できる国として位置づけ、信頼できないとする人は17%程度でした。主要国への信頼/不信度を比較すると、日本に次いで2位に位置づけられるのは欧州連合（EU）であり52/28%、3位以下は、米国47/33%。中国37/41%、インドが35/36%となっています。

日本を信頼する理由は、重要度の順に、「国際法を遵守・擁護する責任あるステークホルダー」、「グローバル・リーダーシップを発揮する経済的な力と意思がある」、「日本を尊敬し、文明と文化を称賛する」などとなっています。更に、「休暇で訪問したい国」としては、日本は30%で1位、アセアンが16%で2位、3位が10%で韓国となっています。しかし、信頼性の高さは、決して、日本の経済的影響力が高いことを意味しているわけではありません。東南アジアで最も高い影響力を持つのは中国であり56%、これに、米国、ASEAN がそれぞれ15%と次いでおり、日本は6%に過ぎません。信頼性の高さや経済的影響力の強さは、どのように関連するのでしょうか。

座談会でも取り上げて頂いた、3つの論点について見てみましょう。

第一は、ルール・ベースの経済秩序の再構築です。

第二は、気候変動対策とエネルギー安全保障の両立です。

第三は、量ではなく、質の高い援助です。

ここからみると、グローバルサウス、少なくともとりわけアジアの人々の期待と日本が信頼される理由は、一致しているように思えます。

まず、第一のルールベースの国際秩序の現状については、カナダのカーニー首相のダボス演説が、現状を極めて明快に述べています。現状は、「Middle Power が依拠してきた多国間機関 - WTO、国連、COP - すなわち集団的な問題解決のための制度的枠組み自体が今まさに脅威にさらされています」と。しかし、それは、中堅国にとって混乱でしかありません。私を含め少なからぬ人々は、過去2年ほどの間、CPTPP 国

と EU が協力して、ルールベースの国際秩序を再構築する必要があると主張してきました。そうした議論が、民間ベースでは少しずつ始まりつつあります。その場合、Global South の国々も Middle Power の国々と同じ問題に直面しています。両者の協力こそが望まれています。日本が、先に述べたように、Global South の国々から影響力は大きくなくても信頼されているのなら、こうした動きのリーディング国の一つとして、Middle Power 国と Global South の橋渡し役を果たすことは可能はずです。影響力は多くの国々の協力が生み出すものです。先のカーニー首相も言っています。「各国、特にカナダのような中堅国は決して無力ではない。弱い立場にある者の力は、まず誠実さから始まるのです。」影響力は、誠実で、信頼のできる国々の協力から生まれるのです。

第二に、現実的な気候変動対策です。一部の国が、経済成長を重視して、気候変動そのものを軽視し始めています。確かに、過去10年ほど、エネルギー安全保障を忘れて、非現実的なエネルギー・環境政策が進められてきたきらいがあります。途上国は成長が重要です。安価で安定的なエネルギーが不可欠です。重要なのは、気候変動対策とエネルギー安全保障政策のバランスです。日本の多くの人々は、2050年の脱炭素化をあきらめておりませんが、発展途上国にまで強制することは非現実的だと主張してきました。ここでも、日本への Global South からの信頼は、日本を橋渡し役とする貴重なサインだと思います。

第三が、量ではなく、質の高い援助です。おそらく、Global South が、今、日本に求めているのは、質の高い援助ではないでしょうか。日本は、アジアを中心に Global South の国々をインフラ整備、産業投資、人材養成などで支援してきました。1990年ころは、ASEAN の GDP は、日本の十分の一でした。35年後の2025年には、ASEAN の GDP は日本を抜こうとしています。日本には、アフリカや、中南米など他の Global South に対し、アジアにおいて行ったものと量的に同じ支援は、もはやできませんが、人材養成を中心に、質的に発展のノウハウを質的に共有することはできないのでしょうか。

Global South と日本の協力は、少なくとも、以上の三分野、ルールベースの経済秩序、気候変動とエネルギー安全保障の両立、量ではなく質の高い援助などにおいて、一定の地域だけではなく、世界に貢献するものと確信しています。

JS

豊田正和：1973年通商産業省（現・経済産業省）入省。OECD 国際エネルギー機関勤務を含め、通商・エネルギー・環境などの分野で幅広い経験を積む。2010年日本エネルギー経済研究所（IEEJ）理事長、2021年国際経済交流財団（JEF）会長に就任。